

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 4 日現在

機関番号：32704
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：17K12323
研究課題名（和文）高齢者や認知症の家族をケアする子ども・若者の発見・支援のためのプログラムの開発

研究課題名（英文）Development of programs to identify and support young carers and young people caring for the elderly and their family members with dementia

研究代表者

青木 由美恵 (Aoki, Yumie)

関東学院大学・看護学部・教授

研究者番号：60347250

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：地域包括支援センターに働く3職種等および児童民生委員を対象に質問紙調査を行い、以下の点が明らかになった。これまでに関わった子ども・若者の中で、ヤングケアラー、若者ケアラーがいると回答したのは、全体の約3人に1人、民生児童委員においては回答者の約16人に1人であった。子どもがケアしている相手は、きょうだいと母親が圧倒的に多い。ケア内容は家事ときょうだいの世話が多く、家族構成はひとり親家庭の割合が高い。学校生活への影響は、欠席・遅刻、学力が振るわないが多くみられた。また、家族をケアする子ども・若者への支援者のインタビューでは、そこから抱える課題を検討し、支援プログラム案を作成・施行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域包括支援センターの3職種とケアマネジャーへの調査による実態把握と、具体的な実践事例からの支援プログラムの開発により、既存の有償・無償のボランティアなど地域住民参加型の子どもや介護者支援のプログラムを活用しながら、持続的な支援を目指す。調査過程においてこれまでの調査結果を示すことで、調査協力者は、高齢者や認知症の家族を介護する子ども・若者の存在を知る機会となる。このことにより、これまで以上に子ども・若年介護者の存在に気づいたり、支援プログラムにつなげたりできることが期待される。

研究成果の概要（英文）：A questionnaire survey was conducted targeting three occupations working at the Community Comprehensive Support Center and the Children's Welfare Committee Members, and the following points were revealed. (1) Among the children and young people involved so far, about one in three respondents answered that they had a young carer or a youth carer, and about one in sixteen respondents among the civil children's commissioners. (2) The overwhelming majority of children are caring for siblings and mothers. (3) The content of care is housework and sibling care, and the family structure is high in the proportion of single-parent families. (4) The impact on school life was often absent, late, and poor academic ability. In addition, in interviews with supporters of children and young people caring for their families, we examined the issues they faced and drafted and implemented a support program.

研究分野：高齢者看護 家族看護 看護教育

キーワード：ヤングケアラー 若者介護者 高齢者ケア 家族支援

1. 研究開始当初の背景

子ども・若年の介護者は、「見えない」存在とも言われる。本来、子どもらしい時間を過ごすことや自分の将来を考えるための支援が必要である。しかし、専門家が彼らのニーズを知らない、彼らが自身を介護者と気づかず自ら SOS を発信することが難しい、などの理由から、介護者であることが家族の外部の人々には見えず、必要な支援に結び付きづらい(松崎 2016)。家族や地域内の支援力の低下が指摘される中、晩婚化、高齢出産の増加、少子化、ひとり親家庭の増加、貧困や外国につながる子ども 2) など、様々な分野の課題が複雑に絡み合い、複数課題を抱える家族の状況が見られる。

2012 年、高齢者の 7 人に 1 人(約 462 万人)が認知症であり、若年性認知症者数は約 3.8 万人とされ、当事者と家族が抱える問題も注目されている(朝田 2013; 2008)。仮に 50 代の親が認知症になると、家族間での介護役割の調整が難しくければ、子どもや若者が役割を引き受ける状況もある(北山 2015)。実際に 15 歳~24 歳の介護者は 22.5 万人と推定されている(森田 2016)。平成 21 年に成立した「子ども・若者育成支援推進法」や、平成 27 年「誰もが支えあえる地域構築に向けた福祉サービスの実現(厚生労働省)でも、子ども・若年介護者の存在や困難、介護者支援の視点は欠落している。

イギリスでは、障害や慢性的な病気、精神的な問題をもつ家族のケアをしている 18 歳未満の子どもや若者を「ヤングケアラー」という(Becker 2000)。1970 年代からのコミュニティケア改革の中で注目され、1980 年後半から調査や支援活動がされ、(三富 2008)根拠となる法律もある。

一方、国内のヤングケアラーに関する研究は、少数事例の研究や(森田 2010、土屋 2012、澁谷 2012)、医療ソーシャルワーカー(澁谷 2014)や小中学校教員への質問紙調査(ヤングケアラープロジェクト 2015、北山ら 2015)が存在する。しかし、当事者である子どもへの調査の難しさが推察される。高齢者、特に認知症の家族をケアする子どもや若者の存在や実態の多くについても明らかにされていない。今後の認知症者数増加を考えると、その存在に気づいている専門職を通しての調査研究は喫緊の課題である。

【用語の定義】

「子ども・若年介護者」: 高齢者や認知症の家族への介護やケアを担う 18 歳未満・18 歳以上から概ね 30 歳代までの若者(日本ケアラー連盟ヤングケアラープロジェクト 2015 より改編)。

「外国につながる子ども」: 「文部科学省が日本語指導が必要な外国人児童生徒」と呼んでいる、外国籍の子どもたちのみならず外国にルーツをもつ日本国籍の子どもたち(末藤 2011)。

申請者らは既に、介護を担う子どもに関して、新潟県南魚沼市の公立小・中・特別支援学校の教職員への質問紙とインタビューの調査、および高校生への質問紙調査を実施した。さらに、神奈川県藤沢市の全公立小・中・特別支援学校の教員への質問紙調査を回収し終え、分析により、限定された地域の教育現場からではあるが、子ども介護者の実態をある程度とらえることが可能となる。

そこで今回は、福祉現場から、子ども・若年介護者の実態とニーズを把握していく。加えて、子ども・若年介護者自身と、彼らの身近な環境である保護者や教育・医療・福祉等の専門家等が彼らに気づき、そのニーズに応答するための支援者と当事者支援のプログラムとして、申請者が研究実践活動を重ねているリフレクション(振り返り)を活用して開発する。

既に 2016 年度、介護を担う子どもに関する調査を藤沢市教育委員会を通して着手しており、同市の福祉分野の現状把握へとさらに発展させる。市内 16 ヶ所の地域包括支援センターの 3 職種とケアマネジャーへの調査による実態把握と、具体的な実践事例からの支援プログラムの開発へとすすめる。既存の有償・無償のボランティアなど地域住民参加型の子どもや介護者支援のプログラムを活用しながら、持続的な支援を目指す。さらに、教育現場と福祉現場との連携によるライフステージに応じた支援プログラムへと発展させる。

調査過程においてこれまでの調査結果を示すことで、調査協力者は、高齢者や認知症の家族を介護する子ども・若者の存在を知る機会となる。このことにより、これまで以上に子ども・若年介護者の存在に気づいたり、支援プログラムにつなげたりできるものが求められている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、高齢者や認知症の家族のケアを担う子ども・若年介護者の実態とニーズを明らかにし、その課題への支援プログラムを開発することである。

3. 研究の方法

支援プログラムの開発にあたり、まず高齢者や認知症の家族のケアを担う子ども・若者について、地域包括支援センターに働く3職種（保健師等・社会福祉士・主任介護支援専門員）と地域のケアマネジャーの、子ども・若年介護者に関する認識とニーズについて質問紙調査とインタビューにより明らかにした。次に、調査結果から課題を検討し、ライフステージに応じた支援プログラムを作成した。具体的には、申請者のこれまでの成果（青木 2016）や先行研究・先駆的实践活動（手島 2014、松浦 2014）を参考に、試案を作成し施行した。

4. 研究成果

地域包括支援センターに働く3職種（保健師等・社会福祉士・主任介護支援専門員）等136人および児童民生委員530名を対象に、質問紙調査を行い、それぞれ、有効回答98名（有効回答率72%）、有効回答430名（有効回答率81.1%）であった。調査の結果、以下の点が明らかになった。これまでに関わった子ども・若者の中で、ヤングケアラー、若者ケアラーがいると回答したのは、地域包括支援センター・市役所においては回答者の約3人に1人、民生児童委員においては回答者の約16人に1人であった。小学校高学年から数が増え、女子が6割弱を占める。

子どもがケアしている相手は、きょうだいと母親が圧倒的に多い。ケア内容は家事ときょうだいの世話が多く、家族構成はひとり親家庭の割合が高い。先生が気づいた経路は、子ども本人の話が多い。学校生活への影響は、欠席・遅刻、学力が振るわないが多くみられた。第1段階の研究成果はリーフレットにまとめ、各対象者の所属機関を通して配布するとともに、フィードバックの場を設けるために研究協力機関全てを対象に研究成果を用いた研修会を開催して頂き講演した。

次に、地域包括支援センターに働く3職種および民生児童委員を対象とした質問紙調査の成果をまとめたリーフレットを、各対象者の所属機関の要望に応じて引き続き配布した。さらに、調査結果を中心とした報告・研修会を要望に応じて実施し、フィードバックの場を設けることにより、インタビュー調査の適切な対象者の選定、および協力可能性のある機関との連携を進めた。この活動により、おもな調査フィールドとなる機関（行政、社会福祉協議会、地域包括支援センター、子どもの居場所、子ども食堂など）へ働きかけた。またインタビュー調査に向けて、保健・医療・福祉・教育の専門職や一般市民にも広く本研究テーマを知ってもらえるよう、研究成果に関連したブックレット（共著）を執筆するとともに、誌上発表による研究成果の発信につとめた。

COVID-19状況を慎重に見極めながら、十分に配慮をしてフィールドでのインタビュー調査の実施可能時期を見定めた。高齢者や認知症の家族をケアする子ども・若者への支援者のインタビューを実施した。本研究課題へ取り組んでいるこの数年間において、家族をケアする子ども・若者に対する社会の関心が高まり、国および自治体の取り組みがはじまり、研究対象者からの協力も得やすい状況であった。収集データから分析を行い、そこから課題を検討し、支援プログラム案を作成し、施行した。

また本研究計画の最終年度に予定していた、プログラムの修正・改良とへの示唆を得るため、子ども・若年介護者支援に関する取り組みが進んでいるイギリスにおける成果発表と情報交換について、現実的に可能なものを実施した。2022年度に開催される学会等の専門分野及び時期について情報収集をし、検討した。研究の進捗状況及びそれらの学会等の開催情報、そして大学の教育業務のスケジュール等を照らし、現状までの成果の共有と、イギリスにおける高齢者や認知症の家族をケアする子どもの発見・支援に関する情報交換を本研究のまとめの段階で実施した。その内容としては、本研究課題の調査結果として本邦の家族を介護する子ども・若者に関する実態について、イギリスの実践者と共有しながらディスカッションを行った。また、イギリスにおける家族をケアする子ども・若者の発見・支援についての具体的な活動に関する情報交換を行い、その実際についての理解を深め、本研究課題のまとめを行った。これらは、次の研究課題に具体的に活用できる内容となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 青木由美恵	4. 巻 16(1)
2. 論文標題 ヤングケアラーという「ツール」を与えられて - イギリスのヤングケアラー支援にふれながら	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 認知症ケア事例ジャーナル	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木由美恵	4. 巻 64(4)
2. 論文標題 ヤングケアラーと家族の支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 455-462
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木由美恵	4. 巻 8
2. 論文標題 ヤングケアラーの理解と支援課題 支援対象者の「とらえなおし」を意識して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 看護展望	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木由美恵	4. 巻 2月号
2. 論文標題 ナースが知っておきたい『ヤングケアラー』のこと～「見えない存在」「見えにくい存在」といわれる家族をケアする子どもたち～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 エキスパートナース	6. 最初と最後の頁 108-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木由美恵	4. 巻 72(5)
2. 論文標題 気づきにくい“家族のケアをしている子ども”～ヤングケアラーを知っていますか～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 健康教室	6. 最初と最後の頁 99-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木由美恵	4. 巻 465
2. 論文標題 “ヤングケアラー”を知っていますか ヤングケアラーとはどんな子どもたち？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心の健康ニュース	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木由美恵	4. 巻 466
2. 論文標題 “ヤングケアラー”を知っていますか ヤングケアラーとはどんな子どもたち？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心の健康ニュース	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木由美恵	4. 巻 467
2. 論文標題 “ヤングケアラー”を知っていますか ヤングケアラーとはどんな子どもたち？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心の健康ニュース	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木由美恵	4. 巻 20(10)
2. 論文標題 家族をケアする子ども(ヤングケアラー)・若者の発見・支援のために	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 48-52
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木由美恵	4. 巻 2
2. 論文標題 ケアを担う子ども(ヤングケアラー)・若者ケアラー - 認知症の人々の傍らにも -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 認知症ケア研究誌	6. 最初と最後の頁 78-84
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 森田久美子、沖村有希子、宮崎成悟、青木由美恵、堀越栄子 ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 64
3. 書名 ヤングケアラーを支える 家族をケアする子どもたち。	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	村上 亜紀 (Murakami Aki) (00795883)	関東学院大学・看護学部・助手 (32704)	2017年度のみで削除

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------